

式辞

松山東雲女子大学・松山東雲短期大学を卒業される皆様、ご卒業おめでとうございます。皆様が手にされる学位記とその努力に我々教職員一同を代表して心よりお祝いを申し上げます。

本日、松山東雲女子大学九二名、松山東雲短期大学二三五名、計三二七名の皆様がこの桑原キャンパスを巣立つことになりました。昨年より、コロナの関係で勉強や活動に多くの制限があったことと思いません。しかし、よく言われるように「ピンチはチャンス」皆様は今回のピンチをどのようにチャンスに変えることができましたでしょうか。ステファン・ポージェスのポリヴェーガル理論で人間は身体を通して体験することが重要であると言っています。人間は生涯、他者に依存しています。例えば、生まれたばかりの非力な乳幼児は授乳され世話される事で生存できます。成人では生存のため社会から安全と食物を得ることで生理的状态を調整することができます。そして、自らの潜在能力を発達させ、最大限に活かすため、人間は他者との交流を必要とします。コロナ禍というピンチの中で人との繋がり大切さをより強く経験できたことはこれからの人生への示唆としてのチャンスを得たのかもかもしれません。

人は人と接してお互いに折り合いをつけることで成長してお互いに高め合うことができます。折り合いをつけることつまり、自己主張だけにとどまらず、他人の考えや感じ方を取り入れる事で今までに無い自分自身を創造することができるという事です。

生物学で耳にするシンバイオテックスは、互いに良い影響を与え合うものを組み合わせ、相乗効果の創発を意味します。コロナ禍の中で対面での人と人の交流が難しい状況ではこのシンバイオテックスのよ
うな効果は希薄であったかもしれませんが。しかし、コロナは永遠に続
くものではなく、近い将来必ず収束の時を見るであろうと思われま
す。皆さんは東雲で身につけた知識や技術を社会に出て、地域社会の
構成員として心が喜ぶ経験を他者とより一層共有して下さい。

心の肥料は無意識の中に重畳していきます。近年は何も考えずにい
るときでもデフォルトモードネットワークと言って、脳はしっかりと
働き続けています。その時、それまで記憶の中に溜め込んだ心が喜ぶ
良い経験は知らず知らずの間に皆さんの精神をより高いところへと導
いてくれます。積極的に地域社会の人たちと心が喜ぶ経験を重ね人の
輪や絆を構築してください。

最後に、卒業しても皆さんの心の中に東雲をもち続け、いつでも、
このキャンパスを思い出してほしいのと同時に、心の故郷として訪れ
てほしいものです。

簡単ですが、卒業式での私からの式辞といたします。

本日はご卒業、誠におめでとうございます。

二〇二一年三月十二日

松山東雲女子大学

松山東雲短期大学

学長 高橋圭三